

このコーナーでは、
農業のちょっとしたコツを、
市の営農指導員と
地域おこし協力隊員から
お知らせします。

営農指導員の ワンポイントアドバイス

営農指導員 永奥 啓
なみき ながおく けい

アスターを直売所へ 出荷してみませんか

●経営上の特性

アスターは古くから栽培されてきた花で親しみ深く、お盆やお彼岸に多く用いられてきました。最近では品種改良が進み、花の形や色も豊富になっています。用途も仏花からテーブル花、花束にと多岐にわたる、直売所向きの花だといえます。



アスター

●作型

庄原では7月出荷から9月出荷の作型が考えられますが、比較的栽培が容易で、かつ販売しやすいのが8月出荷の作型です。

▼播種（種まき） 3月中旬～下旬

▼定植 4月中旬～下旬

▼出荷 8月上旬～中旬

●栽培の方法

①育苗

この作型での播種は3月で、まだ地温が低いため、ハウスやトンネルで保温する必要があります。また、播種用土は苗立ち枯れ病防止のために土壌消毒したものか市販の育苗用土を使用します。

②定植

アスターは連作を嫌う花きで、4年以上アスターを栽培していない圃場を選び、本葉5～6枚程度のときに植えます。

定植の1カ月以上前に1アール当たり堆肥を200キログラム、基肥を成分量でチッソ、リン酸、カリともに1.5キログラム施用し、深く耕しておきます。土の酸度（pH）は6.5程度に調整します。

条間は25～30センチメートルの2条植えで、株間は15センチメートル程度とします。

③管理

アスターは根を浅く張る花きで、乾燥を嫌います。半面、過湿にも弱いので、排水対策をしっかりとっておきます。

また、倒れて花茎が曲がり品質が低下することを防ぐため、フラワネットを張ることも大切です。

④病気

主な病気では、萎ちよう病、斑点病、灰色かび病などがあります。萎ちよう病は連作地で発生しやすいので、連作を避けることが大切です。他の病気は、発生を見たら早めに薬剤散布するとともに、被害葉は摘み取り焼却します。

問い合わせ

農業振興課農業振興係
0824・73・1132

女性からはじめる 獣害対策

地域おこし協力隊 草谷 夏枝
くさたに なつえ

中小動物対策をしましょう

ぐっと寒くなってきましたね。動物たちも厳しい季節を迎える前に、より暮らしやすい場所を見極めていくことしましょう。

家の近くでタヌキやイタチを見かけたり、家でこそぞ音がかかることはありませんか。タヌキ、キツネ、アナグマ、イタチ、テン、ハクビシンなどの動物を中型動物といいます。中型動物は家の天井や床下に住み着くことがあり、空き家が増えている昨今では非常に問題になっています。

家の周りでふんを見かけたり柱に爪痕を見かけたら要注意。通風口や隙間など侵入口になりそうな場所には網を付け、エサになるものは家の周りに置かないよう対策しましょう。



夜間、民家の通風口に入ろうとするタヌキ。空き家だけでなく人が住んでいる家でもこのようなことが起こります。

ストーリーで知る 「獣害」はなぜ起きているの

「ねえ、お母さん、どうしてサルやイノシシは人間の住むところに出てくるようになったの？」

西城地域では2013年に「獣害対策」をテーマに芝居が上演されました。その脚本をお借りして、先月、七塚のサロンで「動物はなぜ人里に出てくるのか」を解説しました。

日頃のちょっとした心掛けが「予防」につながります。畑のことがひと段落する冬の間に、みんなで楽しく、ストーリーで学んでみませんか。

人間に
知恵が付くと
やりにくく
なるなあ



「獣害対策勉強会」
の申し込みは林業
振興課まで！



鳥獣被害は農作物だけにとどまりません。一人一人の行動が、安心して暮らしていける地域づくりにつながります。

問い合わせ

林業振興課林業振興係
0824・73・1124